

令和6年度 水資源功績者表彰について

◆ 健全化会議における長年に渡る功績により、今年度、水資源功績者として、虫明先生が表彰されました

➤ 水資源功績者表彰：水資源開発・利用、水源の涵養、健全な水循環の維持又は回復等水資源行政の推進に関し、永続的に尽力するなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体を表彰するもの。

➤ 令和6年8月2日に、「水の週間」（8月1～7日）の関連行事の中で、同表彰の表彰式が行われました。

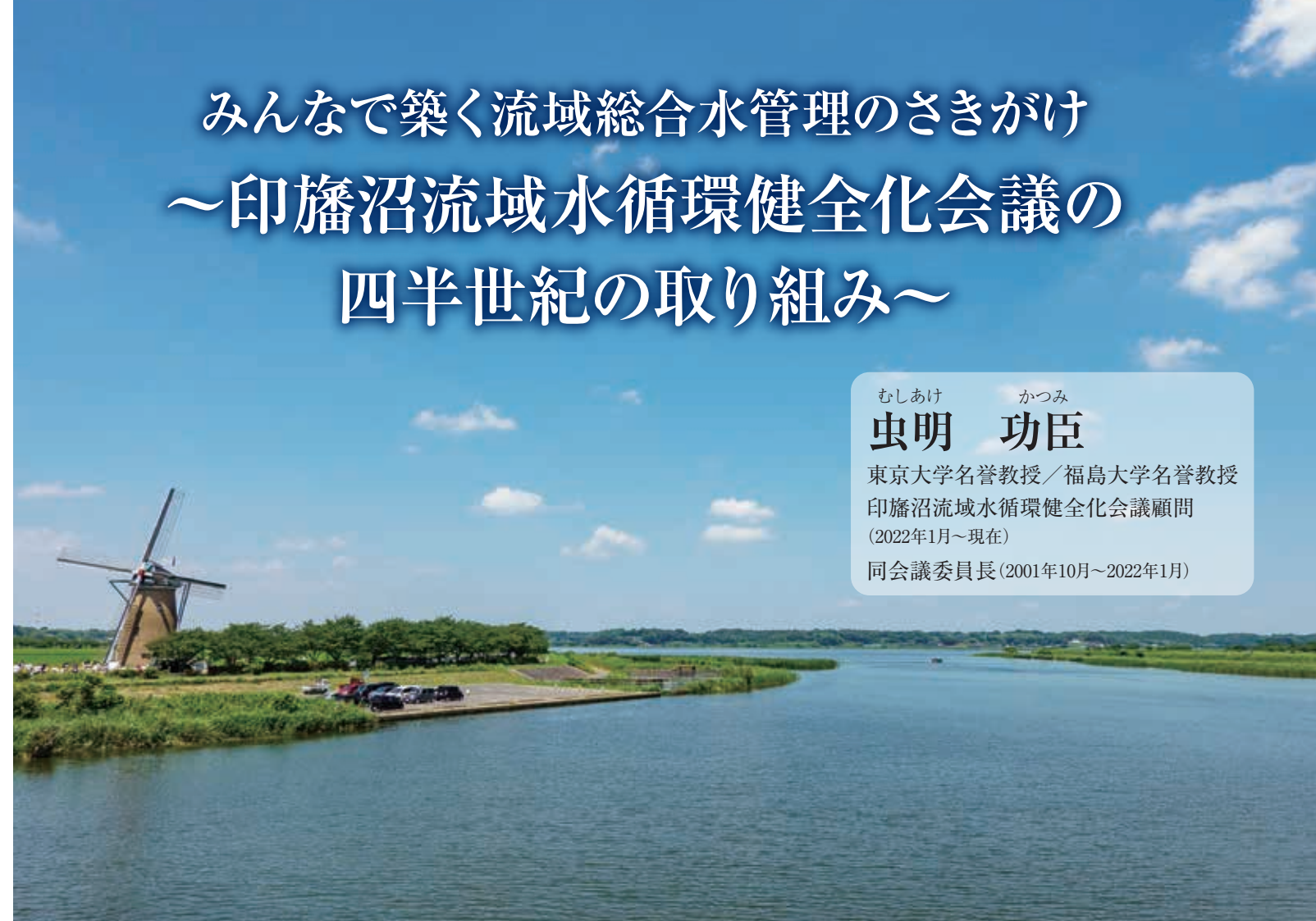


国土交通大臣からの表彰状授与

みんなで築く流域総合水管理のさきがけ ～印旛沼流域水循環健全化会議の 四半世紀の取り組み～

むしあけ かつみ
虫明 功臣

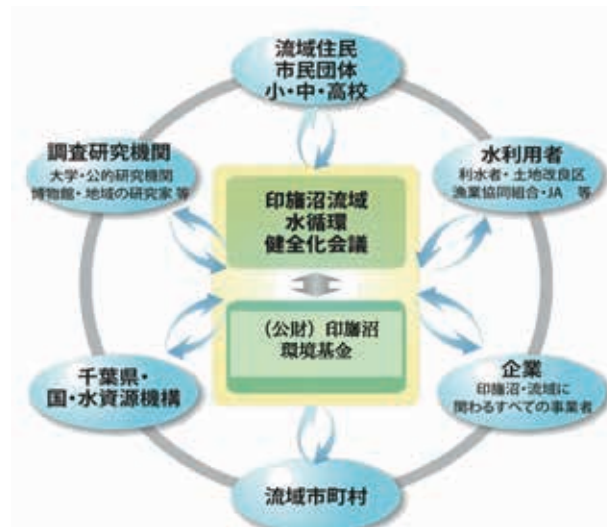
東京大学名誉教授／福島大学名誉教授
印旛沼流域水循環健全化会議顧問
(2022年1月～現在)
同会議委員長(2001年10月～2022年1月)



印旛沼流域水循環健全化会議の設置

流域は都市と農村が混在する地域です。高度経済成長期以降、台地部・低平地ともに急速に都市化が進行(流域人口…1967年34万人↓2001年74万人↑)、低平地の浸水被害の頻発化、沼の水質悪化と生態系の劣悪化が進んだことに対応して、2001年10月に印旛沼流域水循環健全化会議が設立されました。

会議の目的は、印旛沼とその流域の状況を改善するために、健全な水循環の観点から中長期的なタイムスパンで治水対策と水環境改善策を提示し、推進することです。図に示す5つの目標を定め、当初より行政の縦割りを乗り越えて流域住民を含む印旛沼に関係するすべての団体・機関が協働して取り組みができる六者連携による推進体制を取ってきました。



六者連携による推進体制



基本理念と5つの目標

印旛沼とその流域の概要

印旛沼は、千葉県北西部、都心から50 km圏内に位置し、流域面積は541 km²、上流水源域は洪積層を基盤とし関東ロームを被る下総台地とそれを樹枝状に侵食する谷津によって構成、長門川を通じて利根川下流に繋がっています。

江戸時代には、享保年間、天明年間、そして天保年間の三度、治水・水



印旛沼とその流域の概要

運・新田開発を目的とする掘削工事が計画・着手されましたが、いずれも挫折。昭和21年、戦後の食糧増産などを目的として印旛沼の干拓・かんがい排水事業が開始され、その後経済成長に伴い都市用水の需要が高まったのに対応して1963年に水資源開発公団による印旛沼開発事業がスタート、1968年完成。推計190万人への水道用水、京葉工業地帯等の工業用水、印旛沼周辺の農業用水に年間約2億5千万m³の水供給を行う水がめとなっています。

緊急行動計画の策定

課題の整理、それぞれの課題に対する資料収集・解析・モデル化に基づき、当面実行すべき取り組みと役割分担を定めた「緊急行動計画」が2004年2月に策定されました。その主な内容は、

〇みためし行動

〈モデル地区で試行的に実施し、その効果を評価・点検・修正しながら流域全体への拡大を考える〉

9つの分野：①市街地・雨水浸透系、②生活排水系、③農地系、④学び系、⑤冬期湛水系、⑥生態系、⑦企業系、⑧印旛沼連携プログラム、⑨市町村みためし、を設定、分科会方式で市民団体を巻き込みながら推進。

〇わいわい会議

〈住民と行政との意見交換会〉

流域市町で持ち回り開催、住民の意見を計画に反映

〇印旛沼再生行動大会・流域環境フェア

〈取り組みを広く住民に知ってもらうための場〉

県知事、流域首長も参加



みためし行動

【市街地雨水浸透系】の雨水浸透施設の設置によって湧き水が復活した加賀清水



わいわい会議

市町での持ち回りで開かれた行政と地域住民との意見交換会、健全化計画の施策に反映

水循環健全化計画の策定と実施経緯

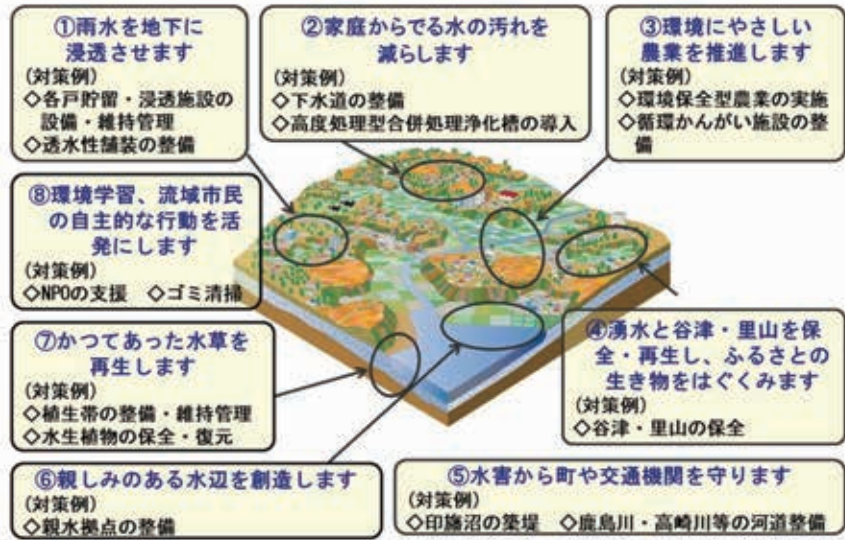
6年間のみためし期間の経験を基に2010年1月に印旛沼流域水循環健全化計画を策定しました。この計画は、2030年度を最終目標年度とし、5年ごとに行動計画を見直すこととしています。

計画の具体的な内容と実施の経緯については、WEBサイト「いんばぬま情報広場」等をご覧ください。ここでは、要点だけを列挙します。

○5つの目標それぞれの達成度を示す評価指標を定め、数値化できるものに対しては目標年度に対する数値目標を提示

○これらの目標を達成するため、下図に示す8つの重点対策群を設定、取り組みの内容と実施主体を定めて推進

○行動計画は、第1期(2009～2015年度)、第2期(2016～2020年度)、第3期(2021～2025年度)と進められてきました。第3期では、新たな政策課題「流域治水、グリーンインフラなど」に対応する取り組みも重視しています。



健全化計画における8つの重点対策群



かわまちづくり計画
印旛沼沿岸から印旛放水路への進展

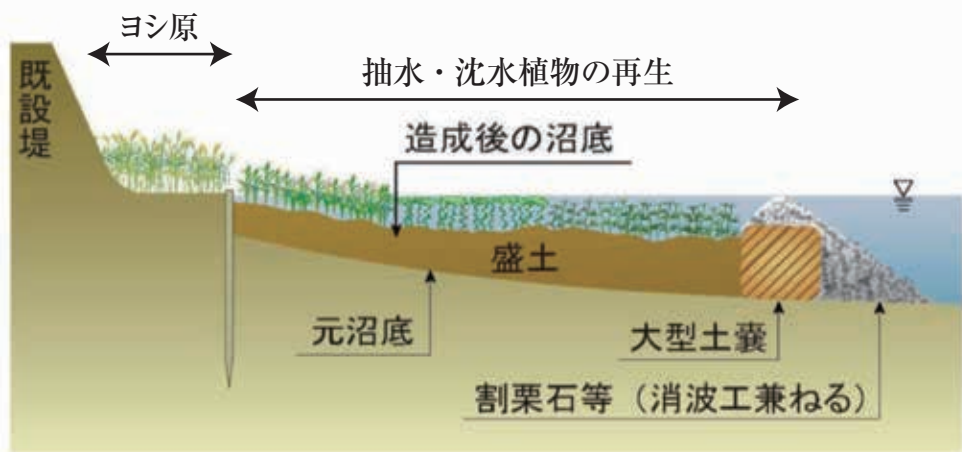


飯野一里塚とサイクリングロード

これまでの取り組みの成果

こちらも、主な点に絞って列記しますので、詳細についてはWEBサイトをご覧ください。

○事業としては、水辺のエコトーンを再生する植生帯整備、並びに、広域的な水辺の利活用促進、水と地域のネットワークづくりを図るために「印旛沼流域かわまちづくり計画」を推進



植生帯整備：水質浄化と生態系復元のためのヨシ原と抽水・沈水植物の再生



植生帯整備後の例：水辺には抽水植物、水面下には水草が再生

これからの発展への期待

計画の目標最終年の2030年は間近です。上述のように成果が上がりつつある反面、残された課題も多くあります。それに、気候変動による水災害の激甚化など、対応すべき新たな問題が生じています。

本年8月に見直された水循環基本法の水循環基本計画において、「流域総合水管理」の理念のもとに、流域治水・利水・環境保全を包摂する「流域マネジメント」が提唱されています。これを追い風とし、健全化計画の実績の上に推進体制を強化して新たな印旛沼流域マネジメントへと発展することを期待しています。



市民・市民団体と学生団体が連携して行う
ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦



環境学習のための現地研修会